

6号 特集 病を受け止め、今を生きる

1997年4月に「情報館」がオープンし、その中の研修センターで働き始めたメンバーが中心になって「体験を語る会」が企画された。以前からやどかりの里では、全国からの要請でメンバーが講師として各地に出かけていたが、最近とみにその機会が多くなってきている。今回の企画はその背景を踏まえて、それぞれが講師として、どう語ったら自分の言いたいことを聞いている人に伝えられるか、ということの自己研鑽の意味もあった。思いがけず多くの方々の参加を得られたが、精神分裂病の体験、病気や障害を持ちつつ暮らす中で気づいたことを地域の人々の輪の中で語っていったことは、今後彼らが地域社会で「主体的」に生きていけることの証でもあった。